

2021 年度弘陵造船航空会交流会 報告  
(第 51 回総会及び第 44 回講演会)

昭和 55 年卒 堀沢真人・岸本直彦・小岩敏郎

昨年の交流会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い開催が見送りとなりました。今年もコロナ禍のため、リアルでの実施を避け、第 51 回弘陵造船航空会・交流会が、2021 年(令和 3 年)5 月 22 日(土)13:00 から、オンラインミーティングソフト“Zoom”により開催されました。総会については、会則で開催形態について規定されておらず、今回のオンライン方式での開催は正規の総会として取り扱われます。

今回の交流会の司会進行は、事務局のご指導・ご支援の下、担当年次の昭和 55 年卒のクラス幹事である岸本直彦、小岩敏郎、堀沢真人の三名が担当しました。

本報告を行うにあたり、交流会の準備・運営に多大なご指導とご支をいただいた阿部会長をはじめ、役員・事務局の方々に心より御礼を申し上げます。なお、オンライン開催のおかげで、ニューヨーク赴任中の小岩をはじめ海外からもご参加をいただくことができました。

以下に交流会の報告をいたします。

1. 開催日時 2020 年(令和 3 年)5 月 22 日(土)13:00~15:30
2. 開催方式 “Zoom”によるオンライン開催
3. 出席者 会員 合計 56 名
4. 第 51 回総会 13:00~14:00

(1) 逝去者の報告と黙禱

開会の辞に続き、2020 年 6 月から今回の総会までに事務局が逝去のご連絡を受けた会員 32 名のリストを報告し、出席者全員で黙禱を捧げました。

(2) 阿部会長挨拶

議事に先立ち、阿部会長からご挨拶をいただきました。その概要は以下のとおりです。

- 2019 年度は交流会(総会・講演会等)、役員会などの会合はすべてリアルで開始したが、2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、交流会等は中止としたが、役員会、クラス幹事会などについては Zoom によるオンラインミーティングにより実施した。
- クラス幹事会では、10 月の第一回で村井先生から、2 月の第二回で弘陵賞受賞の武里江子さんのご講演をいただき、どちらも興味深い、素晴らしいお話に活発な質疑がなされた。
- コロナ禍による困窮学生への支援制度を設け、2020 年 7 月に 12 名に支援金を支給した。
- 2021 年度の課題として、①リモート会議の工夫、②会員相互の交流の新しい場の創出、③地方交流会の精神に維持が挙げられる。会員各位のお知恵をいただきたい

(3) 2020 年度活動報告及び会計報告

真島理事より、2020 年度活動の詳細に関する説明とともに、「リモート方式の導入によりコロナ禍にあってもかなり活動できた。移動を必要とせず、参加しやすいというメリットもある。今後の活用の仕方を考えたい」とのお話がありました。

決算報告について飯島理事より説明がありました。

会計監査結果について中島監事より報告されました。これら報告について、異議はなく、2020 年度活動報

告及び決算報告は承認されました。

(4)2021 年度活動計画案及び予算案

2021 年度活動計画案について脇屋理事より、また予算案について飯島理事よりそれぞれ提案が行われ、原案どおり承認されました。

なお、活動予定については、7 月までコロナ禍が収束しないことを想定してオンライン開催としているが、今後の状況により変更となる可能性がある旨、説明がありました

(5)2021 年度役員人事

阿部会長から、以下の役員人事案が提案され、承認されました。

役 職	氏名(敬称略)	横浜国立大学卒業年次等
理事・会長	阿部 孝三	昭和 47 年学部卒業
理事・副会長	入江 泰雄	昭和 48 年学部卒業
理事・教室代表	川村 恭巳	教授、海洋空間のシステムデザインEP 教室主任
理事	飯島 正明	昭和 50 年学部卒業
理事	真島 篤	昭和 54 年学部卒業
理事(新任)	堀沢 真人	昭和 55 年学部卒業
監事	小林 顕太郎	昭和 51 年学部卒業
監事(新任)	佐伯 愛一郎	昭和 50 年学部卒業

また、これまで理事を務められていた脇屋 元氏(昭和 54 年卒、昭和 56 年修士修了)には、事務局サポート役として総務アドバイザーへの就任が提案され、あわせて承認されました。

(6)大学(教室)の近況及び弘陵賞受賞者紹介

川村教室代表理事から以下のとおり報告が行われました。

① 教室の歴史について

1929 年、横浜高等工業学校造船工学科としてスタートし、現在の理工学部 機械・材料・海洋系学科 海洋空間のシステムデザイン EP(EP:教育プログラム)に至る変遷について説明がありました。

② 教育・研究体制

大学および大学院(理工学府 機械・材料・海洋系高額専攻 海洋空間システムデザインユニット)の現状とともに、令和 3 年度から新設された新大学院「先進実践学環」の説明がありました。この「学環」は 4 つの大学院の教員が 500 を超える授業を提供し、先進的な分離融合、異分野融合の教育研究を実践するものであり、今年度、海洋空間のシステムデザインの教員が指導する学生が 8 名とのこと。また、専任教員の紹介がありました。

③ 就職状況

2020 年度の就職・進学状況について説明がありました。学部卒業生 35 名のうち、19 名が大学院に進学、16 名が就職。就職先は造船・重工 4、建設 1、航空 1、鉄道 2、工学系・IT 2 その他 4、官公庁 2。

大学院博士課程前期 22 名のうち 21 名が就職、進学 1。就職先は船級 2、海洋 3、重工 1、海運 1、自動車 3、プラント・建設 2、鉄道 1、機械 1、その他工学系・IT・コンサル等 6、官公庁 1。博士課程後期 2 名は企業に就職。

④ 弘陵賞について

卒業研究および修士論文審査会により、次の方々が受賞しました。

・卒業研究:「造船工程管理標準化のためのデータモデリングに関する検討」、河合宏樹氏(指導教員

満行泰河准教授)

・修士論文:「航空機のリスク管理に関する研究」、武里江子氏(指導教員 上野誠也教授)

⑤ 海外渡航支援、ひれ推進コンテスト奨学金について

海外派遣プログラム、ひれ推進コンテスト(高校生向けイベント)については、コロナ禍により中止としたこと、今年度も中止の可能性が高いことが説明されました。

⑥ その他

コロナ禍における授業の実施状況は、学部の講義は今年度から原則対面で実施していること、大学院の授業は原則オンライン、研究室は通常通り稼働との説明がありました。

(7)会報第 61 号目次案

会報第 61 号目次案について、脇屋理事から説明がありました。

最後に、令和3年度卒業のクラス幹事の河合さんと久保さんにご挨拶と今回の参加の感想をいただきました。以上をもって、弘陵造船航空会第 51 回総会は閉会しました。

5. 講演会 14:05~15:30

第 44 回講演会は、国土交通省大臣官房技術審議官の斎藤英明氏(平成元年卒)より「IMO の GHG(CO<sub>2</sub>)規制とゼロエミッション船の開発」と題し、講演をしていただきました。内容は GHG(CO<sub>2</sub>)削減への取り組み、日本海事産業の戦略、海外の技術開発、ゼロエミッション船の開発などわが国の海事産業が生き残りをかけた課題について重要なお話をお聴きすることができました。

また、国際会議における海事立国としての役割とリーダーシップ、条約の積極的な作成、各国の利害調整の難しさ、国益に利するための画策、AI 技術や Autonomous システムの応用、水素やアンモニア燃焼エンジンの開発など、是非、現役学生や先生の方々に広く知ってほしいことから、別途、大学向け講演会を開催することが提案され、実施する方向で検討することとなりました。

以上